

文・写真 松澤美穂

# 地方 紀民 行鉄

## とさでん交通株式会社



幕末・明治の記憶が随所に残る  
高知城下を縦横に走るとさでん。  
時折出会う、  
「ごめん」と掲げた電車の姿が  
街行く人の気分を和らげ、  
微笑みを誘う。

「電車」がきれいに撮影できる場所を教えてください。事前に送った質問状への、とさでん交通からの回答は、「はりまや橋交差点付近（ダイヤモンドクロッシング）」「葛島橋東詰（橋梁上の車両）」「舟戸」北浦電停間（白壁の家の前）……。白壁の家の前？ それは一体どこなのか、どんな写真が撮れるのか。

どんな写真が撮れますか？

北浦電停は、高知市の中心部に位置する、はりまや橋電停から「後免町」方面に19番目。18番目の舟戸電停を過ぎた辺りから、車窓に「白壁の家」を探してみると、困ったことに右側にも左側にも白っぽい壁を持った家が複数ある。とりあえず北浦電停で下車して、舟戸電停に向かって歩き戻ってみたいけれど、それが「白壁の家」なのか分からない。カメラを持ってウロウロする間に、電車は次々やって来る。電車がきれいに撮れそうな、いくつかの「白壁の家」に目処を付け、とにかく撮影。正解の「白壁の家」かどうかは別として、まずまずの写真が撮れた。ひとまず、それでよしとして、次は鹿兒電停へ。鹿兒と田辺島通電停間にある鹿兒神社も、お薦めの撮影ポイントの一つ。理由は多分、神社のある場所。行きの電車の車窓には、電車のすぐそば、軌道すれすれに鳥居が見えた。路面電車の一区間は短い。たいした距離はないだろうと鹿兒電停に向けて歩き出し、軌道に沿って歩ける道が途切れているのに気付く。住宅街を迂回して、再び軌道沿いを歩き

出しても、すぐまた歩道が途切れてしまつ。「最短経路が目の前にあるのに！」と軌道を眺めてがっかりしていると、行き先表示に「ごめん」と掲げた電車がタイミングよく傍らを通過。電車から謝られたようで気が抜ける。

気を取り直して、行きつ戻りつ、鹿兒神社に到着。軌道と鳥居の間には、思っていたよりスペースがあるけれど、狛犬たちは結構ギリギリ。それにしても、鳥居と軌道が近接したこの光景、どこかで見たことがあるような。記憶を探って思い出したのは鎌倉を走る江ノ電。江ノ電も、沿線にある御霊神社の鳥居のそばをすり抜けるように走っていた。江ノ電を思い出したところで、やって来たとさでんを鳥居と一緒に撮影すると、緑とクリム色の車体の色味まで江ノ電と似ている。

鉄道ファンには周知のことかもしれないけれど、遠く離れた2路線の共通点を見つけたと、誰かに話してみたいくなる。

### 城下町で歴史の勉強

鹿兒神社を後にして、とさでんに再乗車。ここからしばし、歴史探訪。2018年は、明治維新から150年の節目の年。幕末・明治の偉人を輩出した高知県では、「志国高知幕末維新博」と称してさまざまなイベントが、2017年から2年にわたって高知城をメイン会場に開催中。そうでなくても、城下町に来たのであれば、お城に行かないわけには行かない。

高知城前電停で電車を降りると、お城はす

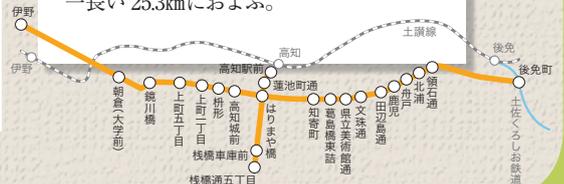


どちらも「白壁の家」の前から撮影。

## とさでん交通株式会社

【とさでんこうつうかぶしがいいしゃ】

高知駅前電停から棧橋通五丁目電停を結ぶ南北の路線と後免町電停から伊野電停までを結ぶ東西の路線が、はりまや橋で交差する。路線は路面電車の中では日本一長い 25.3kmにおよぶ。





坂本龍馬誕生地碑は、建物の前にひっそり建つ。



高知城などでは明治維新から150年目のイベントが開催中。



鹿兒神社の鳥居の前を電車が通る。車体の色も江ノ電と似ている。

ぐそこ。江戸時代に建てられた天守が現存している、国内でも珍しいお城だ。有名な観光名所は平日でも観光客が途切れない。団体客にはガイドが付き、お城の造りから、土佐藩初代藩主・山内一豊と妻・千代のエピソードまで、滑らかな解説を披露している。周りで聞いているだけでは物足りなくなり、近くの高知城歴史博物館へ。こちらでも、「志国高知 幕末維新博」関連の企画展が開催中。

日本史の中でも人気の幕末。出来事の流れは知っているつもりだったけれど、実は知らないことばかり。大人になってからの勉強は楽しい。ゆっくり観覧したいところだけれど、時間が足りない。適当なところで切り上げて、高知が生んだ有名人・坂本龍馬の生誕地まで足を延ばす。龍馬の生家はすでになく、跡地である上町一丁目電停の前に「坂本龍馬誕生地碑」が建てられている。高知城からは徒歩10分もかからない。身分が低いなりに裕福な家に生まれたという龍馬は、結構都会っ子だったのが。

龍馬誕生地碑の近くには「龍馬の生まれたまち記念館」が、記念館の近くには「近藤長次郎邸跡」がある。近藤長次郎って誰だったわけ？ などと思いつつ何とはなしに歩こうち、気付けば上町五丁目電停に到着した。はりまや橋から「伊野」方面に10番目の電停だけれど、総延長25・3kmのときでん、路線図で見ると、まだまだ中心部。長い路線の利便性を考えてか、とさでんの一日乗車券は「市内均一区間」のものと「軌道全線」の2種類がある。せっかく「軌道全線」の一日乗車券を買ったのだから、満喫しないと

いけない。上町五丁目電停から終点・伊野電停まで約30分、途中下車なしで一気に向かう。

**開放感も満点の仁淀川**

「ごめん」と謝る電車に、「いの（いくの）」と許す電車。とさでんでは、そんな面白い行き先表示を掲げた電車ばかりが走っていると思っていた。よく考えれば、全ての電車が長い路線の端から端まで走り通すわけがない。「いの」と掲げた電車に乗り込み、「ごめん」の電車とすれ違えないかと、向かいの電車の行き先表示に注目するも、「ごめん」はなかなかやって来ない。

結局、「ごめん」と出会えないまま、伊野電停に到着。伊野電停には途中の電停にはなかった小さな待合室がある。待合室で時間をつぶし、折り返し後免町電停まで乗って行こうかとも思っただけれど、近くに仁淀川が流れていることを思い出し、川を目指して、商店街を抜け土手を登る。行き着いた広い河川敷の向こうには、悠悠流れる一級河川・仁淀川。ゆったりとした景色は開放感も満点で、何だか「本日のゴール」に到着した気分。

普段でも十分きれいな仁淀川だけれど、8月から1カ月、ずっと上流まで上っていけば、川の水が青く見える「仁淀ブルー」も楽しめるのか。徒歩で行くのは到底無理だし、今は季節も合わない。それじゃあ、次に来るときは、伊野を「スタート」に仁淀川を巡ろうか。まだ帰ってもいいのに、次回の予定ができました。



仁淀川は伊野駅から徒歩数分。



伊野駅は駅舎付き、近くにはこんな看板も。



高知駅電停に入るときでん。近くには坂本龍馬・武市半平太・中岡慎太郎の像が立つ。